

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		富坂子どもの家		公表日		2025/1/31	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			定員に対しては条件を満たしているが、職員体制として週に数回でも追加スタッフがいるとよりよいため、継続検討していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80%	20%			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		必要に応じて絵カード、写真などを使用して視覚支援などが配置されている		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		お子様ご自分の気持ちを出すための手段をそのお子さんの発達や特性に応じて準備し、実用しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		業務の効率化を図りながら、毎日の支援の振り返り会議を実施する中で、個々の発達と課題に応じた支援が支援計画に基づきできるよう、モニタリングを積み重ねています。	研修内容の共有、当施設に当てはめた場合などを検討する勉強会など、今度、さらなる業務改善につながるように検討していきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		日々の発達支援会議の他に、併用機関見学、モンテッソーリ、キリスト教関係、発達支援、管理者向け研修、児童発達支援管理責任者分野別研修、虐待防止研修など研修の機会を設け、情報共有しています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			モンテッソーリ教育のプログラムをもとに、児童の発達と特性にあわせ、チームで共有・検討しながら支援計画を作成し、保護者と共有している。また、日々の活動の観察をもとに、業務前後のミーティングにて情報を共有し、短期的な活動の計画を立て、日々支援を行っている。	モンテッソーリ教具・教材が発達段階のアセスメントツールとなっている。今後は、職員間でより理解の深化が高まるように、可視化できるような記録方法・ツールを検討していきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		毎日のグループ後の発達支援にて個々の振り返りの中でモニタリングを行っています。小さな見直しを積み重ねていくことを大切にしています。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		併用している幼稚園、保育園、発達支援センターなどの保護者の同意を得たうえでの連携、情報共有を大切にしています。併用機関の担任の先生の見学を随時受け付けております。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		各区の就学相談の係や保護者と状況を確認しながらお子さんの発達や学習に適した教育環境に移行できるように動めています。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%		地続きの園庭があり、同法人運営の保育所が隣接しているため、日常的に、園庭交流をしたりしている。隣接する保育園との交流をしている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		お一人お一人のお子様とご家族の状況は異なるので、個別に必要な説明や相談、面談、関係機関連携を実施しています。 支援計画の本人の希望欄に、本人の気持ちの聞き取りや行動観察も含めて「お子様ご自身の希望」を記載しています。保護者のご希望も併記しています。 どんなことでもいつでもタイムリーに相談に応じられるよう連絡をいただく手段を複数設けています。相談受理日からなるべく近い日程で、即日以降、面談をさせていただいております。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		

・併行利用児のさらなる支援のため、今後は、併用している園への訪問や見学受け入れ、情報共有なども推進していきたい。

現在も、保護者の集いなどを通じて家族の対応力の向上などを目的とした支援活動を行っている。会の内容を、保護者の声をもとに、さらに充実したものにしていこうと努めてまいります。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		マニュアルに従い、定期的に避難訓練をしています。イレギュラーや不測の事態に不安定になりやすいお子様方にわかりやすい様に、避難の仕方や、防災頭巾のかぶり方、頭巾にかわる保護帽を用意し、日常からなじめるように工夫しています。	ホームカミングデイ、保護者の集い、モンテッソーリ保護者向け講座、ご兄弟のグループ参加や見学なども実施しています。今後は兄弟児同士の交流も視野に考えたいと思います。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		災害時引き取り訓練を実施している	地震や災害などの状況をアップデートし、緊急時対応マニュアルや業務継続計画（BCP）などを定期的に見直し、今後も改善、アップデートを継続して行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		避難訓練は火災、地震と分けて実施、避難車の定期点検実施 利用児と、近隣警察や区防災課への訪問をしている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		主治医からの指示書をもとに、緊急時に必要な薬を預かっている。また、保護者との同意書を得て、搬送先、連絡方法など確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	80%	20%		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	80%	20%		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		緊急時連絡先ファイルへの記載、災害伝言ダイヤルの周知を定期的に行っている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハットを作成しており、日々の支援会議で、事案が発生した際には情報を共有確認し、再発防止策をチームで考え記録し再発予防しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%				